

ホケンダイつきいちゼミ(2025年10月号)



Q1.研究テーマを教えてください。



A.学童期の児童を対象とし、**栄養教育の効果**について研究しています。修士研究では、ベトナムの小学生を対象に栄養教育教材を開発し、その効果について検証しました。



Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



A.青森県内の特別支援学校で栄養士として学校給食の提供や食に関する指導をしています、奥山莉紗子です。現在は休職をしており、2026年1月からJICA海外協力隊の隊員として、コロンビアで子供たちへの給食の提供や栄養教育の実施に関わらせていただきます。



ホケンダイつきいちゼミ(2025年10月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



A. 対人ケアマネジメント領域 学校栄養研究室です。
鹿内彩子教授のご指導の下、研究を行っています。

Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



A. 開発途上国では、**栄養士の養成が十分でなく**、
学校給食が実施されていなかったり、実施されていても栄養管理ができていなかったりという状況がみられます。卒業研究で訪問したカンボジアでそのような状況を目の当たりにし、**学校給食と栄養教育の実施の必要性**を感じ、開発途上国の学校現場における栄養教育について研究したいと思うようになりました。



ベトナムの学校給食の一例

ホケンダイつきいちゼミ(2025年10月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



A.日本の栄養教諭等の知見を生かした栄養教育教材を現地の方の意見も聞きながら開発しました。さらに、その教材を使用してベトナム人教員が児童に栄養教育を実施することで、その効果を検証しました。



Q6.どんな成果が得られていますか。



A.栄養教育を実施したことで、児童の食に関する態度と実践に関して改善がみられました。また、栄養教育を実施した教員自身も栄養の重要性を再認識したことがわかりました。この研究全体を通して、学校における栄養の専門家の必要性が認知されたことが示唆されました。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年10月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



A. 開発した教材は農村部など他の地域でも有効なのか、さらに検証したいです。また、開発途上国の**教育現場が栄養の専門家にとって活躍の場となる**よう、さらにこの研究を発展させたいと考えています。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



A.私は、特別支援学校で栄養士として働きながら大学院生として修士研究を行いました。大学院では、現場で活躍する先生方の興味深い話を聞いたり、様々な背景をもつ大学院生との意見交換ができた、職務にも大変役立ちました。
興味がある方は、ぜひ青森県立保健大学大学院へ！！

ホケンダイつきいちゼミ(2025年10月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



A.対人ケアマネジメント領域 学校栄養学研究室

客員研究員 奥山 莉紗子

メールアドレス：2381003@ms.auhw.ac.jp

よろしくお願いいたします！



奥山様、ありがとうございました。

保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！